

【飯田龍太】

写真パネル 甲府中学5年 1937（昭和12）年頃

写真パネル 百戸の谿口絵写真

飯田蛇笏筆「御届」1933（昭和8）年6月19日 甲府中学校一年一組監督伊藤教諭宛

「雲母」1942（昭和17）年11月 各地句会報掲載

「雲母」1951（昭和26）年6月「紺緋」巻頭号

飯田龍太「雪の峰しづかに春ののぼりゆく」幅 1954（昭和29）年

飯田龍太「雪山のどこもうごかず花にほふ」幅 1960（昭和35）年

飯田龍太「母が割るかすかながらも林檎の音」短冊 1949（昭和24）年

飯田龍太「鯉雲日かげは水の音迅く」色紙

飯田龍太『百戸の谿』1954（昭和29）年8月 書林新甲鳥

飯田龍太『童眸』1959（昭和34）年3月 角川書店

飯田龍太『麓の人』1965（昭和40）年11月 雲母社 雲母叢書第29篇

飯田龍太『忘音』1968（昭和43）年11月 牧羊社「現代俳句十五人集」第1巻

飯田龍太「つばめ去る鶏鳴もまた糸のごと」幅 1964（昭和39）年

飯田龍太「紙ひとり燃ゆ忘年の山平ら」幅 1965（昭和40）年

飯田龍太「涅槃の手」句稿

「俳句」1966（昭和41）年2月

飯田龍太「どの子にも涼しく風の吹く日かな」幅 1966（昭和41）年

飯田龍太「一月の川一月の谷の中」幅 1969（昭和44）年

「俳句」1969（昭和44）年2月号「明るい谷間」掲載

写真パネル 山廬裏手の竹林にて 昭和30年代後半 撮影若林賢明

飯田龍太『春の道』1971（昭和46）年10月 牧羊社

飯田龍太旧蔵釣り竿・釣り道具

吉岡堅二画・飯田龍太賛「かたつむり甲斐も信濃も雨のなか」額装

飯田龍太「三伏の闇はるかより露のこゑ」幅 1973（昭和48）年

飯田龍太「遠くまで諸葉のそよぐ夏景色」幅 1974（昭和49）年

飯田龍太「去るものは去りまた充ちて秋の空」幅 1978（昭和53）年

写真パネル 山廬庭前にて 齊藤勝久撮影 角川学芸出版提供

飯田龍太「率爾」句稿「俳句」1974（昭和49）年11月掲載

「俳句」1974（昭和49）年12月 特集「現代俳句の百人」

飯田龍太「目覚めのあとに」句稿「俳句」1978（昭和53）年6月掲載

「俳句」1978（昭和53）年6月

飯田龍太『山の木』1975（昭和50）年4月30日 立風書房

飯田龍太『涼夜』1977（昭和52）年9月 五月書房和装本シリーズの1巻、限定400部

飯田龍太『今昔』1981（昭和56）年11月 立風書房 題簽 飯田龍太 篆刻 寺西健 装丁 前川直

飯田龍太『山の影』1985（昭和60）年7月 立風書房 題字 飯田龍太 装丁 前川直

飯田龍太使用の落款印 2点

飯田龍太印譜

飯田龍太「白雲のうしろはるけき小春かな」幅 1985（昭和60）年

飯田龍太「なにはともあれ山に雨山は春」扇面額 1987（昭和62）年

飯田龍太「千里より一里が遠き春の闇」色紙 1988（昭和63）年

飯田龍太「動かざる嶺あればこそ大暑かな」色紙

飯田龍太『遅速』1991（平成3）年12月 立風書房 装幀 菊地信義

飯田龍太「『雲母』の終刊について」原稿（写し）「雲母」1992（平成4）年7月掲載

「雲母」終刊号 1992（平成4）年8月

飯田龍太「雲母の十五作家」原稿「俳句」1967（昭和42）年8月掲載

「俳句」1967（昭和42）年8月

飯田龍太「後山の記」原稿

「俳句」1963（昭和38）年2月「後山の記」掲載

「俳句」1952（昭和27）年11月

飯田龍太自句自解「白雲のうしろはるけき小春かな」「露ふかし不意にめでたき空の色」
「年暮るる庭師焚火の輪を解けば」
飯田龍太『紺の記憶』1994（平成6）年7月 角川書店 装画 船越保武
飯田龍太『遠い日のこと』1997（平成9）年6月 角川書店 装画 萩原英雄
飯田龍太愛用カメラ 二眼レフ（ミノルタ）
写真パネル 小黒坂の風景（村の女性・狐川上流）撮影 飯田龍太
飯田龍太貼り交ぜ屏風（複製）

第5室 山梨出身・ゆかりの作家と作品

前期展示49名 ～8月28日

【ジャーナリズム】

徳富蘇峰

徳富蘇峰『烟霞勝遊記』上・下 1924（大正13）年 民友社
徳富蘇峰 藤谷真淵宛書簡 1950（昭和25）年12月29日
藤谷みさを『蘇峰先生の人間像』1958（昭和33）年1月 明玄書房

池辺三山

池辺三山「新聞記者の地位」「山梨日日新聞」1888（明治21）年1月12日〈パネル〉

川合信水

「女学雑誌」第338号 1893（明治26）年2月
川合信水『吾が体験の道』1925（大正14）年9月 生々社

石橋湛山

石橋湛山 中村星湖宛書簡 1961（昭和36）年12月30日消印
『石橋湛山写真譜』1973（昭和48）年3月 東洋経済新報社

廣瀬千香

廣瀬千香「共古日録」メモ
『山中共古ノート』第1～3集 1973（昭和48）年6月～1975（昭和50）年6月
廣瀬千香『思ひ出雑多帖』1990（平成2）年7月 日本古書通信社
廣瀬千香「箸もつ筆もつたまさか針も」色紙

川合 仁

川合仁『私の知っている人達』1970（昭和45）年10月 藤書房
川合仁刊行会『回想・川合仁』1975（昭和50）年4月 川合澄男

望月百合子

望月百合子『大陸に生きる』1941（昭和16）年5月 大和書店
望月百合子『限りない自由を生きて』1988（昭和63）年3月 ドメス出版
矢崎千代二画「望月百合子肖像」

雨宮庸蔵

雨宮庸蔵『偲ぶ草』1988（昭和63）年11月 中央公論社
坪内逍遙「研精草思」色紙

竹中 労

竹中労『無頼と荊冠』1973（昭和48）年9月 三笠書房
竹中労ほか「夢よ少年懐古浅草の灯よチャンバラ時よ」色紙 1977年6月8日

竹中労『鞍馬天狗のおじさんは』1992（平成4）年8月 ちくま文庫
竹中労『ザ・ビートルズレポート』1982（昭和57）年6月 白夜叢書
竹中労『仮面を剥ぐ』1983（昭和58）年2月 幸津出版
竹中労『無頼の墓碑銘』1991（平成3）年8月 KKベストセラーズ

【小説・評論・随筆・翻訳ほか】

相田隆太郎

相田隆太郎『テクノクラシイ』1933（昭和8）年4月 新潮社
相田隆太郎『農民文学の諸問題』1949（昭和24）年4月 甲陽書房

和田芳恵

和田芳恵「灯」草稿
和田芳恵『接木の台』1974（昭和49）年9月 河出書房新社

山田多賀市

山田多賀市『耕土』1940（昭和15）年3月 大観堂書店
「農民文学」創刊号 1951（昭和26）年9月 農民文化協会

新田次郎

新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂
新田次郎「富士と私」原稿
新田次郎「第二の古里 富士のもと生るも死ぬもこれ運命」色紙

石原文雄

「中部文学」創刊号 1940（昭和15）年4月
石原文雄『断崖の村』1946（昭和21）年7月 高須書房
のむら清六画 石原文雄肖像

藤巻宜城

「あぢさゐ」5月号 1922（大正11）年5月
「映象」第1輯 1925（大正14）年4月
「中央線」創刊号 1968（昭和43）年3月

中村鬼十郎

中村鬼十郎『傾斜地の村』1943（昭和18）年9月 アジア青年社
中村鬼十郎『慟哭の川』1976（昭和51）年10月 甲陽書房

熊王徳平

熊王徳平『いろは歌留多』1942（昭和17）年2月 第一芸文社
熊王徳平『無名作家の手記』1957（昭和32）年12月 講談社
熊王徳平『甲州商人』1958（昭和33）年9月 五月書房
熊王徳平「山の端を月上るなりきりぎりす」色紙

加賀美実

窪川鶴次郎 加賀美実宛書簡 年不明9月27日
加賀美実『昭和初年の青春』1967（昭和42）年6月 福岡書房
加賀美実『蛙』1984（昭和59）年4月 文化総合出版

小林 実

「講談倶楽部」第11巻第12号 1959（昭和34）年12月
小林実『白い太陽』第一部・第二部 1961（昭和36）年3月 東京信友社

鳴山草平

鳴山草平「墮ちたる英雄」原稿

「新青年」第20巻第5号 1939（昭和14）年4月
「金びら先生とお嬢さん」台本 1953（昭和28）年 松竹

羽中田誠

野間仁根『酔いどれ記者』挿絵原画
羽中田誠『墓碑銘』1973（昭和48）年2月 東邦出版社

保坂義照

保坂義照『武田二十四将論』1944（昭和19）年2月 アジア青年社
保坂義照『愁風天目山』1952（昭和27）年9月 農村文化協会

小川正子

小川正子『小島の春』1939（昭和14）年4月改版 長崎書店

金子文子

金子文子『何が私をかうさせたか』1931（昭和6）年7月 春秋社
『金子文子歌集』1976（昭和51）年3月 黒色戦線社

大町桂月

大町桂月「ふもとより頂までも富士の根を背負ひてのぼる八ヶ嶽哉」他短歌軸装

野尻抱影

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910（明治43）年5月19日〈複製〉2010.3.9～展示
山口誓子・野尻抱影『星恋』1946（昭和21）年6月 鎌倉書房

平賀文男

平賀文男『日本南アルプス』1929（昭和4）年6月 博文館
「山と溪谷」第168号 1953（昭和28）年6月 山と溪谷社

寺田重雄

寺田重雄『甲州魚風土記』1980（昭和55）年12月 芸文社
「鶴 nue」終刊号（寺田重雄追悼号）1995（平成7）年

芦澤一洋

芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』1994（平成6）年11月 小沢書店
芦澤一洋『アウトドア・ものローグ』1985（昭和60）年8月 森林書房
芦澤一洋『山女魚里の釣り』1989（平成元）年2月 山と溪谷社
芦澤一洋『自然とつきあう五十章』1979（昭和54）年6月 森林書房
芦澤一洋『バックパッキング入門』1976（昭和51）年 山と溪谷社
芦澤一洋『フライフィッシング全書』1983（昭和58）年 森林書房

山中共古

山中共古『甲斐の落葉』1926（大正15）年11月 郷土研究社

土橋里木

南方熊楠 土橋里木宛葉書 1930（昭和5）年12月19日
土橋里木『山梨県の民話と伝説』1979（昭和54）年7月 有峰書店
土橋里木『山村夜譚』1993（平成5）年6月 近代文芸社

大森義憲

大森義憲『甲州年中行事』1952（昭和27）年11月 山梨民俗の会

中沢 厚

中沢厚『山梨県の道祖神』1973（昭和48）年5月 有峰書店
中沢厚『つぶて』1981（昭和56）年12月 法政大学出版局

浅川伯教

「白磁」創刊号 1922（大正11）年4月
浅川伯教『釜山窯と対州釜』1930（昭和5）年7月 彩壺会

浅川 巧

浅川巧『朝鮮の膳』1929（昭和4）年3月 工政会出版部

永峯秀樹

永峯秀樹『暴夜物語』第1編・第2編 1875（明治8）年2月、5月 山城屋

矢崎源九郎

矢崎源九郎訳『アンデルセン童話名作集』1955（昭和30）年3月 筑摩書房
矢崎源九郎『これからの日本語』1960（昭和35）年2月 三笠書房

【童話・童謡】

大村主計

大村主計『ばあやのお里』1932（昭和7）年1月 児童芸術社
「楽しい童謡集」レコード盤 1959（昭和34）年 コロムビアレコード
大村主計筆「花かげ」書画

米山愛紫

「チチノキ」第18冊 1935（昭和10）年3月
米山愛紫『春の停車場』1942（昭和17）年6月 文昭社
『米山愛紫歌謡集』1975（昭和50）年7月 甲府ライオンズクラブ

小野政方

小野政方『りんごののぞみ』1928（昭和3）年10月 研究社
小野政方『愛児読本』ひらかなの巻 1934（昭和9）年10月 厚生閣

太田黒克彦

太田黒克彦「マスの旅」原稿
太田黒克彦『山ばとクル』1962（昭和37）年5月 講談社

山北しげり

山北しげり『小人の踊り』1936（昭和11）年11月 宏文堂書店
「シャボン玉」1937（昭和12）年2月

塩沢 清

塩沢清『ガキ大将行進曲』1977（昭和52）年4月 旺文社
塩沢清『五年五組の秀才くん』1982（昭和57）年4月 ポプラ社

【戯曲・脚本】

小林一三

小林一三『歌劇十曲』1917（大正6）年10月 玄文社
小林一三『曾根崎艶話』1948（昭和23）年10月 芙蓉書房

河野義博

中村吉蔵・河野義博『近代演劇史論』1921（大正10）年12月 日本評論社
「演劇」創刊号 1932（昭和7）年4月

大木直太郎

「月水金」1月号 1938（昭和13）年1月
大木直太郎『大木直太郎戯曲選集』1998（平成10）年5月 陽光台OAプラザ

菊島隆三

菊島隆三・黒澤明共同脚本「用心棒」台本（第2稿）
菊島隆三・黒澤明・小国英雄共同脚本「椿三十郎」台本（決定稿）
菊島隆三他共同脚本「トラ・トラ・トラ！」台本（決定稿）

小柳津浩

小柳津浩『学校演劇論』1953（昭和28）年11月 甲陽書房
小柳津浩『青年演劇脚本集』1958（昭和33）年7月 甲陽書房
『小柳津浩脚本集 二発の銃声』1986（昭和61）年9月 山梨舞台芸術センター

竹内勇太郎

竹内勇太郎脚本「濁流」台本
山本有三作・竹内勇太郎脚本「真実一路」台本（第2稿）
竹内勇太郎作・演出「樋口一葉考」チラシ 1983年10月 水道橋労音会館ホール
竹内勇太郎『山本勘介』第1巻 1985（昭和60）年8月 学習研究社

後期展示55名 9月23日～3月21日

【詩】 20名

青柳瑞穂

青柳瑞穂『睡眠』1931（昭和6）年1月 第一書房
青柳瑞穂「ハへ撃ち」原稿

尾崎喜八

尾崎喜八『旅と滞在』1934（昭和9）年5月 創文社
尾崎喜八「遠い日の山小屋」原稿 複製

金子光晴

金子光晴「蛾」色紙
金子光晴「多勢のイヴに」原稿
金子光晴『蛾』1948（昭和23）年9月 北斗書院

杉原邦太郎

杉原邦太郎『火山』1930（昭和5）年2月 機山閣書店
杉原邦太郎「昨日は靡く翠であった」色紙

内田義廣

内田義廣「街」原稿

上野頼三郎

上野頼三郎『村の生活』1930（昭和5）年10月 村落社
「山脈」創刊号 1930（昭和5）年8月
上野頼三郎「犬のやうに」原稿

山口啓一

山口啓一『石炭と花』1930（昭和5）年5月 機山閣書店

中室員重

中室員重『兵隊詩集』1931（昭和6）年8月 海図社

米澤順子

米澤順子「或日ひとに」詩稿

米澤順子『聖水盤』1919（大正8）年11月 東京堂

『米澤順子詩集』1932（昭和7）年6月 第一書房

米倉寿仁

米倉寿仁『透明ナ歲月』1937（昭和12）年4月 西東書林

宮田樞夫

「甲府派」創刊号 1954（昭和29）年11月

宮田樞夫『仮面』1954（昭和29）年10月 甲府派発行所

宮田樞夫「オパールの変転」色紙

曾根崎保太郎

「未踏」創刊号 1950（昭和25）年3月

曾根崎保太郎「酩酊が抱くフェニックスの卵黄」色紙

曾根崎保太郎『灰色の体質』1954（昭和29）年11月 甲府派発行所

野澤 一

野澤一「四十一歳三月三日夜作」未定稿

野澤一『木葉童子詩経』1976（昭和51）年11月 文治堂書店

津嘉山一穂

津嘉山一穂「未刊詩集」草稿

「リアン」創刊号 1929（昭和4）年3月

鈴木久夫

鈴木久夫「断崖」原稿

鈴木久夫『断崖』1930（昭和5）年11月 民謡レビュー社

鈴木祐之

鈴木祐之『わたしのヒロシマ』1969（昭和44）年3月 甲陽書房

鈴木祐之「心の頂きに」原稿

小林富司夫

「詩人群」第1集 1948（昭和23）年3月

小林富司夫「地は落葉」色紙

土橋治重

土橋治重 詩集『花』1953（昭和28）年1月 日本未来派発行所

「風」129（終刊）号 土橋治重追悼号 1993（平成5）年12月

土橋治重「甲州の青い空には人事とかかわりなく白い雲が流れていた」色紙

中込純次

中込純次『母と恋人』1929（昭和4）年1月 国風閣

中込純次「山茶火」原稿

一瀬 稔

一瀬稔 詩集『山鷄』1940（昭和15）年10月 中部文学社

一瀬稔筆 のむら清六画 掛軸

【短歌】 15名

伊藤生更

「美知思波」第1巻第3号 1935（昭和10）年5月
伊藤生更『柴山』1951（昭和26）年5月 美知思波発行所
伊藤生更「みんなみの空に一つの雲ありてしづかに富士の峰に近づく」幅

中村美穂

「みづがき」第3巻第1号 1930（昭和5）年1月
中村美穂『佛顔』1931（昭和6）年9月 みづがき社

相澤貫一

相澤貫一『石水集』1971（昭和46）年6月 発行人 古谷幸江

若尾隣平

『若尾隣平遺稿集』1971（昭和46）年1月 発行人 若尾朗
若尾隣平 歌帖「顕覆帖」

中大路佳郷

「須曾乃」第3巻第7号 1941（昭和16）年7月
中大路佳郷 歌稿「ふみづき集」
中大路佳郷『華葩』1987（昭和62）年2月 須曾乃短歌会

伊藤映二

井伏鱒二・伊藤映二 寄せ書き短冊
伊藤映二「書と酒の強ひて今宵の主人公」短冊
伊藤映二『揺籃時代』1926（昭和2）年10月 上田書店

飯野真澄

飯野真澄「広き田の南寄りに黒牛は立ちて居るなり代掻を止めて」色紙
『飯野真澄歌集』1971（昭和46）年8月 白玉書房

青木辰雄

青木辰雄「六階の食堂にゐてやややに茜うするる時を過ぎしぬ」短冊
『青木辰雄歌集』1988（昭和63）年8月 発行 青木文子
「山梨歌人」創刊号 1946（昭和21）年8月

相澤 正

『相澤正歌集』1954（昭和29）年1月 白玉書房

許山茂隆

許山茂隆「病院に歌のメモ帖持ちゆけとけふも空白のまゝ持ちかへる」色紙
許山茂隆『帰園』1947（昭和22）年7月 国民文学社

鈴木 孝

鈴木孝『丘のある街』1966（昭和42）年10月 甲陽書房
鈴木孝「鶏が空の餌鉢をつつく音寒けく聞ゆ夕べの背戸に」短冊
「樹海」創刊号 1954（昭和29）年7月

渋谷 俊

渋谷俊「新らしき家居建ると地の神にまづこそ祈れ永久の栄えを」色紙
渋谷俊『華鬘』1939（昭和14）年4月 柳正堂書店
与謝野晶子「序に代へて」歌稿（渋谷俊『華鬘』所収）

渋谷瑠子

渋谷瑠子『無礙の光』1929（昭和4）年12月 柳正堂書店

茂手木みさを

茂手木みさを『一隅の薔薇』1930（昭和5）年3月 朝日書房

佐野四郎

佐野四郎『杉の花粉』1934（昭和9）年7月 朝日書房

「コスモス」432号 1988（昭和63）年12月

佐野四郎「日のゆふへ行きて耕さむおもひわくすくひの如き富士みゆる丘」幅

【俳句】13名

今村霞外

山廬（飯田蛇笏）『法燈』序 原稿

今村霞外『法燈』1954（昭和29）年8月 私家版

今村霞外「初汐にのりて美しすて扇」短冊

五味洒蝶

五味洒蝶『洒蝶句集』1964（昭和39）年9月 雲母社

五味洒蝶「寒瀑をみる人まれに石叩」短冊

辻 蔭村

「青栗」創刊号 1951（昭和26）年9月

辻蔭村『樹影』1973（昭和48）年7月 雲母社

辻蔭村「山に来て何を踏みても春隣り」短冊

榎本虎山

榎本虎山『餘花』1972（昭和47）年1月 雲母社

榎本虎山「蛇笏忌や身ほとり露と雲の輝り」短冊

角田雪弥

角田雪弥『畦火』1987（昭和62）年7月 竹頭書房

角田雪弥「ほときたるなはに花の香年始め」短冊

山田岫雲

山田岫雲『朴の花』1975（昭和50）年11月 発行 山田武雄

山田岫雲「山駅の夜半の人数や富士道者」短冊

柏木白雨

柏木白雨『白雨句集』1977（昭和52）年7月 若葉社

柏木白雨「夕富士のほの紫や花の上」短冊

鈴木青処

鈴木青処「祖母のゐて紅梅苔む子の娶り」短冊

山口青邨選「稿本青処句集」

堤俳一佳

堤俳一佳『俳一佳句集』1951（昭和26）年4月 裸子発行所

堤俳一佳「虚子庵の梅見頃なる年賀哉」短冊

「裸子」創刊号1949（昭和24）年10月

加賀美子麓

加賀美子麓『火度』1987（昭和62）年8月 牧羊社
加賀美子麓「夕星のあとの夜星や葡萄熟る」色紙

赤堀五百里

赤堀五百里『萬里』1995（平成7）年5月 読売・日本テレビ文化センター
赤堀五百里「踊りつゝ折々アイヌ月に吠ゆ」短冊

石原八束

石原八束「原爆地子がかげろふに消えゆけり」短冊
石原八束『秋風琴』1955（昭和30）年8月 書肆ユリイカ
「秋」創刊号 1961（昭和36）年10月
「麓」創刊号 1990（平成2）年3月

新免一五坊

「菊十句集」子規選作品集 1899（明治32）年11月
「菊十句集」点取表
正岡子規「燈籠にふたたびともす夜半哉」扇面額装

【川柳】 4名

篠原春雨

篠原春雨書「こからしやあとて芽をふけ川柳 初代川柳辞世句」色紙
『篠原春雨句集』1929（昭和4）年8月 春雨句集刊行会

中沢春雨

中沢春雨「音するか古代朱の壺さびしいぞ」色紙
『騒愁 中沢春雨川柳句集』1967（昭和42）年11月 甲陽書房

雨宮八重夫

雨宮八重夫『遍路美知』1977（昭和52）年9月 サンケイ新聞社

田中浮世亭

田中浮世亭「浮世亭句抄」

【漢詩】 3名

香川香南

香川香南『香南詩鈔』1926（大正15）年11月
香川香南『香南晚稿』1934（昭和9）年12月

笠井南村

『笠井南村詩鈔』1996（平成8）年9月 漢詩人社
『翰墨縁』詩稿・印譜

村松蘆洲

村松蘆洲「送兒定孝之瑞西」色紙
村松蘆洲『蘆洲詩集』1980（昭和55）年5月 発行人 村松定孝

(2) 企画展示

① 文芸映画のたのしみ 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫…

期 間 平成24年4月29日(金)～6月19日(日) 45日間

趣 旨 日本映画の百年以上にわたる歴史を振り返ると、小説作品を原作とした映画が数多く制作されてきた。一方、文学者の中でも、映画表現へ強い関心を示した作家が少なくない。本展では、東京都在住の畑三郎氏の10万点にのぼる映画関係のポスター、パンフレット、台本などのコレクションを軸に、原稿などの文学資料とともに、文学と映画の関わり、日本映画に取り込まれた文学の魅力を紹介する。



(左) チラシ
(右) 展示室の様子

編集委員

- 遠 藤 三 郎 (元映画監督・元東京工芸大学教授)
- 川 本 三 郎 (文芸評論家)
- 上 水 光 男 (編集者)

展示構成

- I 映画に魅せられた作家たち 谷崎潤一郎・泉鏡花・川端康成・三島由紀夫
- II 映画になった日本文学 点描

② 深沢七郎の文学 「檜山節考」ギターの調べとともに

期 間 平成23年9月10日(土)～11月6日(日) 60日間

趣 旨 山梨県笛吹市石和町出身の深沢七郎（1914～1987）は、「檜山節考」で鮮烈なデビューを果たし、その後も異色の作家として注目された。歿後初めての本格的な回顧展を開催することによって、起伏に富んだ生涯と独特な作品の魅力を広く県内外に紹介した。



(左) チラシ
(右) 展示室の様子

編集委員

京 谷 秀 夫 (元中央公論社編集者)
中 沢 新 一 (思想家・人類学者)
近 藤 信 行 (当館館長)

展示構成

I 生いたち
II 「檜山節考」 文壇登場
III 「百姓志願」

(3) 特 設 展 示

① 「手紙を書こう 作家の手紙をお手本に」

期 間 平成23年7月23日(土)～8月28日(日)

趣 旨 誰でも手軽に、電話やメールでやりとりをする現代、私たちが手紙を書く機会は少なくなっているかも知れませんが、ペンや筆で、便箋や葉書にしたための直筆の手紙には、独自の味わいがあります。小説家や詩人、歌人、俳人たちが書いた手紙を見ると、お礼の手紙や励ましの手紙、旅先からの手紙、絵を添えた手紙や年賀状など、用件や気持ちを伝えるために、それぞれの場面・状況に応じて、さまざまな工夫を凝らしている様子が見えてきます。

本展では、樋口一葉や夏目漱石、太宰治らの手紙を「お手本」に、手紙を書く楽しさ、読む楽しさ、気持ちを伝えるためのヒントをご紹介します。

展示構成・作家の手紙から

- 樋口一葉の恋文、夏目漱石から芥川龍之介への励ましの手紙、野尻抱影の絵手紙 など
- ・樋口一葉の手紙教室 ～『通俗書簡文』より～
- ・手紙を書くときの約束いろいろ
- ・手紙を待つところ、書くよろこび —絵本『おへんじください。』の世界から—

展 示 資 料 一 覧

樋口一葉『通俗書簡文』1896(明治29)年5月 博文館

樋口一葉 半井桃水宛書簡下書き 1892(明治25)年秋

下村為山 樋口一葉肖像

「武蔵野」第1輯(復刻)1892(明治25)年3月

樋口一葉「闇桜」原稿(複製)

半井桃水『かたみがはり』1893(明治26)年5月 金櫻堂

半井桃水「天狗廻状」新聞連載切り抜き(「東京朝日新聞」)

写真パネル 半井桃水肖像

夏目漱石 芥川龍之介・久米正雄宛書簡 1916(大正5)年8月21日

第4次「新思潮」創刊号(復刻)1916(大正5)年2月

芥川龍之介「鼻」草稿(複製)

第4次「新思潮」漱石先生追慕号 1917(大正6)年3月

芥川龍之介「葬儀の記」原稿

写真パネル 夏目漱石肖像

写真パネル 芥川龍之介肖像

写真パネル 第4次「新思潮」同人

室生犀星 飯田蛇笏宛書簡 1932(昭和7)年12月28日

川端龍子 飯田蛇笏肖像『山廬集』口絵

飯田蛇笏『山廬集』1932(昭和7)年12月 雲母社

室生犀星『犀星発句集』1935(昭和10)年6月 野田書房

写真パネル 飯田蛇笏肖像

写真パネル 室生犀星肖像

太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938(昭和13)年10月25日

「文体」第2巻第2号 1939(昭和14)年2月

太宰治 井伏鱒二宛書簡 1939(昭和14)年1月24日

写真パネル 太宰が滞在した頃の天下茶屋

写真パネル 井伏鱒二と太宰

写真パネル 石原家の人々と

写真パネル 御坂峠の太宰治の文学碑碑文

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910(明治43)年5月19日

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 1910(明治43)年8月6日

野尻抱影 小尾孝平宛葉書 年不明1月24日



正岡子規 新免一五坊宛葉書 1899 (明治32) 年1月
 正岡子規 新免一五坊宛葉書 1900 (明治33) 年1月
 高浜虚子 新免一五坊宛葉書 1902 (明治35) 年1月
 堀内柳南 新免一五坊宛葉書 1906 (明治39) 年1月
 与謝野寛・晶子 中込純次宛葉書 1934 (昭和9) 年1月
 山脇恭 作 小田桐昭 絵『おへんじください。』2004年9月 偕成社
 アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳『ふたりはともだち』1972年11月第1刷 1989年9月第64刷
 文化出版局 山梨県立図書館蔵
 山下明生 作 村上勉 絵『てがみをください』1978年 文研出版 山梨県立図書館蔵
 瀬田貞二 作 林明子 絵『きょうはなんのひ?』1979年8月(1982年第10刷) 福音館書店
 にしむらあつこ 作・絵『ゆうびんやさんのホネホネさん』2003年4月こどものとも傑作集 福音館書店
 山梨県立図書館蔵
 アンソニー・フランス 作 ティファニー・ピーク 絵 木坂涼 訳『ともだちからともだちへ』2003年3月
 理論社 山梨県立図書館蔵
 工藤ノリコ『Letters—レターズ』2009年9月 福音館書店 山梨県立図書館蔵
 ジャネット&アラン・アルバーク 作 佐野洋子 訳『ゆかいなゆうびんやさん おとぎかいどう自転車にのって』
 1987年10月第1刷 1988年1月第3刷 文化出版局 山梨県立図書館蔵
 ジャネット&アラン・アルバーク 作 佐野洋子 訳『ゆかいなゆうびんやさんのクリスマス』1992年10月
 文化出版局 山梨県立図書館蔵
 ジャネット&アラン・アルバーク 作 佐野洋子 訳『ゆかいなゆうびんやさんのだいぼうけん』1996年10月
 文化出版局 山梨県立図書館蔵

② 特設展「樋口一葉 山梨への手紙」

期 間 平成23年11月19日(土)～12月25日(日)

趣 旨 24歳という短い生涯の中で小説「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」など、数々の名作を残した樋口一葉(1872～1896)。一葉の両親が甲州市塩山の出身だったことから、山梨の親戚・知人に宛てた一葉の手紙が残されている。新たに収集した一葉の手紙を中心に、一葉と山梨に関わる資料約30点を紹介。

展 示 資 料 一 覧

詠草 1895 (明治28) 年9月 山梨鈴木助成事業財団寄贈
 一葉 雨宮源吉宛書簡 1890 (明治23) 年7月
 一葉 古屋よし宛書簡 1890 (明治23) 年7月
 一葉 古屋家宛書簡 1890 (明治23) 年10月13日
 一葉 古屋家宛書簡 1893 (明治26) 年5月7日
 一葉 雨宮源吉宛書簡 1893 (明治26) 年12月7日
 一葉 雨宮源吉宛書簡 1893 (明治26) 年12月16日
 一葉 伊庭隆次宛書簡 1892 (明治25) 年7月28日
 一葉 伊庭隆次宛書簡 1893 (明治26) 年4月24日
 一葉 樋口幸作宛書簡 1894 (明治27) 年3月14日
 一葉 樋口くら宛書簡 1896 (明治29) 年5月13日
 一葉 田中為重宛書簡 1896 (明治29) 年5月19日
 下村為山 樋口一葉肖像 1897 (明治30) 年
 大橋乙羽 編『一葉全集』『校訂 一葉全集』1897 (明治30) 年1・6月 博文館
 一葉「たけくらべ」原稿(複製)
 木村荘八 画「たけくらべ絵巻」画稿控 第5章筆屋の場面
 木村荘八 画「たけくらべ絵巻」画稿控 第14章西の市の夜の吉原のにぎわいを描く
 鍋木清方 画 大黒屋の美登利
 一葉女史碑 表・裏 拓本 山梨県立文学館協力会寄贈
 幸田露伴「一葉女史碑」碑文下書原稿
 写真パネル 慈雲寺・法正寺・差出の磯・中萩原の風景・重郎原の樋口家代々の墓所

